



インディアナ日本語学校便り

学校教育目標 自ら学び、正しく行動する国際性豊かな児童生徒の育成

幼稚部作品「お月見」と「紙ひこうき」遊び



インタビュー 小学部 5年2組

「お父さんとエンジニアについて」 マルティネス 岩佐けい

お父さんは22歳のころから車のエンジニアとして働いています。エンジニアとは、新しいものをつくったり、こわれたものを直す仕事です。そのきっかけは、友達がエンジニアの学校に行ったので、自分も行きたいと思ったからです。朝早くのミーティングは大変だけど、新しいライトを試すのは楽しいそうです。将来スポーツカーを買って、旅行できるように頑張っているそうです。インタビュー中のお父さんは、どのように答えたらいいのかと考えていたけれど、きちんと答えてくれました。うれしかったです。

「ぼくのお父さんへのインタビュー」 川井 隼斗

ぼくはお父さんに「3つの質問」をしました。

1つ目は、会社で何をしているのかです。これに対する答えは、生産技術と品質保証の2つでした。ぼくはその2つの仕事内容をくわしく聞きました。生産技術とは、ものを作っている会社には機械がたくさん必要で、その機械を買ったりつくったりするところだそうです。品質保証は、つくっているものが良いかどうかを判断するところだそうです。

2つ目の質問は、時々資料を作っているのを見るけれど、その資料の内容は何かと聞きました。それは、新しい機械を買うときに、どうしてそれが必要なかを説明する資料を作っているのだと教えてくれました。

3つ目は、仕事が好きかどうか聞いてみました。お父さんの答えは「好き」でした。その理由は、ものづくりが好きだから自分の仕事が好きだと答えてくれました。

「水泳のインタビュー」 吉原 結奏

私は友達「ほりお ここな」さんに習い事の水泳についてインタビューをしました。なぜインタビューしたかというと、以前ここなさんとプールに行ったとき、ここなさんは色々な泳ぎをしていました。そのとき、私は泳ぎ方を教えてもらいました。私はどうしてここなさんが上手に泳げるのか気になったのでインタビューしました。

ここなさんは、毎週スイミングクラスで、クロール、バタフライ、平泳ぎ、背泳ぎ、せん水とたくさんの泳ぎ方で、1000mもの距離を泳いでいるそうです。その中でも、ここなさんが好きな泳ぎは、背泳ぎとせん水だそうです。その理由は、ここなさんにとってこの2つが一番かんたんで、学びやすかったからだそうです。

ここなさんの話を聞いていると、彼女が一生けん命に水泳に取り組んでいる様子が伝わってきました。1000mもの距離を泳いでいると聞いて、どのようにすればそんなに長い距離を泳げるのだらうと思いました。

「ぼくのパパとバスケのことについて」

小林 篤史

パパは中学1年生からバスケを始めて、高校卒業まで続けたそうです。バスケが上手になる方法は、自分がもっと上手になる気持ちで練習することと、敵と仲間の動きを見ることだと教えてもらいました。中学、高校と毎日1時間半トレーニングがあり、中学2年生から真剣にやり始めたそうです。そしてバスケをやめたいと思ったことは高校を卒業するまで一度もなかったそうです。ぼくがお父さんに話を聞いた理由は、インタビューをするときに一番話しやすいし、お父さんのことをもっと知りたかったからです。

もう一つの理由は、バスケがもっと上手になりたかったからです。話の中心となったところは、バスケが上手になるということは人によって意味がちがうということを知ってもらいました。お父さんが上手になった方法は、練習を頑張ってやめるということが頭になかったのがきっかけでした。ぼくは話を聞いて、もっと頑張って毎日練習をしようと思いました。

『秋の俳句集』

小学部六年一組

霜降の ふみしめる音 秋終わり

中西 奏人

夜明け前 吐く息白く 寒露かな

佐藤 開治

白露あり 通学時間 白いきり

千代 悠貴

霜が降り 肌寒い風 冬が来る

宮崎 百菜

霜降や 近所周回 山ほどのあめ

栗原 亜月

処暑が過ぎ あつという間に もうハロウィン

西山 心智

朝の陽で 光るグラウンド 霜降だ

織田 理史

立秋さむいさむくて きもちいいな

唐澤 マックス

霜降や 芝生一面 おおわれる

片岡 美裕

裏庭に 真つ赤なじゅうたん 寒露かな

アンダーソン 仁

「プラタナスの木」200字感想文 4年2組

松岡 蓮馬

ぼくの心に残ったところは、おじいさんが不思議なことを言ったところです。木がさか立ちをするなんてだれも考えません。だから、おじいさんの話を読んでも意味が分かりませんでした。お母さんに聞いたら、絵をかいてくれました。それでやっと分かりました。木には根があるのは知っていましたが、実さいに土の下を見たことがないので、想ぞうがつかなかったのでおどろきました。そして、最後の場面でマーちゃんたちがのみきや枝や葉っぱのかわりになったところでも感動しました。

米山 菜月

「プラタナスの木」を読んで初めて知ったことは、木は、根と葉がいっしょくらいの大きさだということです。おじいさんが来なくなった理由は、プラタナスの木がなくなって日かげがなくなってしまったからです。おじいさんは、プラタナスの木も子供たちが遊んでいるすがたを見るのも好きだったのだと思います。わたしは、大きなプラタナスの木が台風でたおれてしまったように、いつも近くにいた木がなくなったら悲しい気持ちになります。

萩原 丈晴

「プラタナスの木」を読んで一番いんしょうに残ったことは、主人公のマーちゃんたちが、最後に切りかぶに立ってばんざいをしたことです。なぜなら、みんなが木のみきや枝になったように見えたからです。きっと、そうすることでマーちゃんたちは、早くプラタナスの木がのびてほしいと願ったのだらうと思いました。

宮沢賢治作品集を読んだの読書感想文 6年1組

「北守将軍と三人兄弟の医者」を読んで 宮崎 百菜

昔 ラユーという首都に、三人兄弟の医者がいた。一番上のリンパーは、普通の医者。その弟のリンポーは、馬や牛の医者であり、一番末のリンボーは、樹医だった。そして三兄弟は、黄色な崖の、あおい瓦の病院を三つ並べて建てていた。ある日、三十年間にわたって砂漠地帯で戦っていた、北守将軍ソンバーユーは帰還した。大臣が近くに来ているけれど馬から降りることができなかったその理由は、長い間空気のかわいた砂漠で一度も馬から動かなかったため、人間と馬が一体化してしまった。どうしても馬から体をはなすことができなかったので、ソンバーユーたちは三兄弟の病院へ向かった。その結果、三兄弟は北守将軍ソンバーユーの体を馬からとりはずすことができた。私はこの話を読んで不思議に思ったところは、なぜ馬から三十年もおりずにずっと長い間馬に乗っていたのかということだ。なぜなら、馬から一度もうおりていないということは、ずっと歩き続けていたのではではないかと私は考えた。

私がこの話で一番印象に残ったところは、「ソンバーユー軍将は、ポー先生の玄関を、光のように飛びだした」というところだ。その文章はソンバーユーの体が馬からはずれてとてもうれしいということが伝わるからだ。



世界で認められる北里柴三郎 新 1,000 円札の人物

2024 年度新たに印刷される 1,000 円札の人物。北里柴三郎です。発症すると死亡する確率が高いことで知られる「ペスト菌」や「破傷風」の予防・治療法を開発したことで、世界に認められる細菌学者です。

新 1000 円札に北里柴三郎が採用されます。それだけ日本の科学の発展に尽くした働きが大きかったのです。北里柴三郎は小学校の社会科の教科書にもなっています。日本の感染症対策は柴三郎の時代から始まったと言えます。



彼の功績は、細菌やウイルスなどの「目に見えない敵」との戦い方を見つけたことです。明治時代は、病気の原因がまだよく分かっておらず、細菌やウイルスの存在は知られていない時代でした。そんな時代にあって、柴三郎は「破傷風」という大変な病気の治療法を見つけます。それまでの医学は病気の症状をやわらげることはできても、根本的に治すことにはつながっていませんでした。柴三郎は原因そのものを取りのぞくすばらしい治療法を確立したのです。それは「血清療法」です。血清療法はのちに改良されてワクチンになります。この功績で、柴三郎は第1回ノーベル医学・生理学賞候補の最終まで残りました。細菌という存在を研究した柴三郎は、手洗いや消毒、マスクの着用など、さまざまな感染症対策を日本で広めます。それは、新型コロナウイルスに直面している私たちが、日々行っていた対策にいかされているのです。



北里柴三郎の生家

北里柴三郎は、1853 年 1 月 29 日、現在の熊本県の庄屋の家に生まれました。柴三郎少年は、幼い頃から体が強く、わんぱくで負けず嫌いで、勉強より道場通いに熱心な子どもでした。柴三郎は、「軍人になりたいので兵学寮(のちの士官学校)への入学したい」と両親に伝えます。しかし両親は北里が軍人になることを許しませんでした。両親に加えて親戚一同もみんな反対したため、18 歳の北里は、医者になって欲しいという親の願いをいったんは聞き入れて、しかたなく熊本医学校(現在の熊本大学医学部)に入学することになります。



オランダ人医師マンズフェル

北里は、入学はしたものの、「語学の勉強が目的で、医学にはまったく興味はない」とまわりに話し、医者になるつもりはありませんでした。ひとまず将来にそなえて外国語の勉強に力をそそいでいました。

そんな北里を医学と結びつけたのは、医学校に先生としてやってきたオランダ人軍医のコンスタント・マンズフェルトでした。マンズフェルト医師は北里の学問への熱心さに大変感心していました。ある日、北里はマンズフェルトから将来何になりたいかをたずねられました。返事に困った北里は、少し考えてから、もうしわけなさそうに「軍人になりたい」と答えました。昔から変わらない北里の正直な気持ちだったのです。この時マンズフェルトは、医学も社会に役立つことができる重要な勉強なので、語学の勉強と同様におろそかにせず努力するよう話しました。

そんな北里に^{てんき おと}転機が訪れます。マンズフェルトに勧められてオランダで発明さ

れたという^{けんびきょう}顕微鏡をのぞいた時のことでした。何気なく上のレンズに目をあてると、彼の目に映ったのは、球形や^{まる つつ}円い筒形など、様々な形をしたバクテリアがたくさん動き回っていたのです。生まれて初めて目の当たりにしたふしぎな光景に、北里は目をかがやかせました。

さらに人体の細胞組織を見ると、そのうごめく神秘を目の当たりにし、顕微鏡の中に^{みち}未知の世界があることを知ります。北里は、ついに医学に^{きょうみ いだ}興味を抱くようになります。



そんな北里をマンズフェルトは自分の助手に^{すす}ばってきし、^{かいぼうがく}解剖学、^{そしきがく}組織学、^{けんびきょうがく}顕微鏡学、^{せいり}生理学、^{びょうりそうろん}病理総論等の授業の通訳を任せます。これにより北里の語学と医学の知識はみるみる向上していきました。人が変わったようにますます医学の勉強に熱心に打ち込んでいきます。熊本医学校での仕事を終えたマンズフェルトは、北里に、「もし君が医学の道を進むのであれば、熊本を出て東京の医学校に進み、卒業したら、さらに国を出てヨーロッパに留学しなさい」と助言をし、別れをおしみながら去って行きました。

北里はマンズフェルトの^{すす}勧めにしたがい、熊本を出て、明治 7 (1874) 年 21 歳で東京医学校 (現在の東京大学医学部) に入学します。マンズフェルトとの出会いにより、軍人にあこがれた一人の青年は、世界中の多くの人類を^{かんせんしやう}感染症から救う「^{にほんきんだいいがく}日本近代医学の父」へと歩み出していくのです。

東京大学医学部で勉強を続けるうちに、北里柴三郎は「**医者の使命は、病気を^{よぼう}予防することにある**」と確信し、予防の医学を一生の仕事にしようと決意します。そして、いよいよ卒業となりました。当時、医学校を卒業した大半の医学士は、月給は 200 円くらいの高い給料の病院長などになるのが一般的でした。しかし北里柴三郎は、高い給料を受け取るのではなく、予防医学の普及・研究に力を注ぎたいという目的から、現在の厚生労働省に就職します。月給は 70 円ほどだったそうです。ここで、北里が発見した「抗体」は、今日のワクチン開発につながるもので、その他に妊娠の見分け方を広めたり、めきめきと頭角を表していきました。北里柴三郎のこうした功績が認められ、国からの^{すいせん}推薦によって医学が世界でも進んでいるドイツのベルリン大学に留学することになります。

【お知らせ】

12 月 17 日 2 学期終業日
1 月 7 日 3 学期始業日

本日の配布物 なし